

毎年、桜の花が満開の季節に北区細江町で行われる華麗な歴史絵巻「浜松市姫様道中」。第1回は昭和27年(1952年)、

旧気賀町役場を中心に、各地域の自治会、商工組合、事業所、青年団の人々が集まって開催しました。

その3年後の昭和30年

(1955年)、気賀町と中川村が合併して細江町となった記念すべき年に、姫様となったのが松原初枝さん(写真)です。

「当時は町内から、女性は20歳の人が道中に参加するという決まりがありました。姫様は、手踊りに参加する同い年の女性たちがお互いに投票しました。みんな同級生でお互いのことをよく知っていましたので、戸惑うことなく投票できましたね。もっとも、私が選ばれたのは本当にたまたまだったのですけれど(笑)」

松原さんが姫様を務めた当日は天気も上々で、桜はまさに満開。当時の都田川堤防は今よりも桜の木が多く、まだ護岸工事が施されていない岸边にはアシやクローバーが生い繁り、たくさんの和船がつながれていて、何ともいえない風情があったといえます。



わが心の浜松

昭和30年

木造の曳舟橋の上で手踊り 桜満開の姫様道中

「ただ、私たちには風情を楽しむ余裕はありません。重いかつらをかぶり、現在のものより小さくて窮屈だった駕籠かごに乗せられて、本当に大変でした。それでも『大事なお役目を全うしなきゃいけない』という思いで頑張ったのを今でも覚えています。途中、当時は木造だった曳舟橋の上で手踊りを披露。この時ばかりは駕籠を出て、かがめていた腰をようやく伸ばすことができました(笑)」

その後、姫様道中は奥浜名湖最

大の観光行事として定着。平成17年(2005年)の合併後は浜松市の行事とされます盛んになっています。「今の姫様は、お化粧法も昔と変わっていますし、何よりも私たちの頃よりずっときれい。また、大きな駕籠に乗れるのもうらやましいですね(笑)。それでも、地域のPR大使としての役割は今も昔も変わりません。これからも姫様道中の素晴らしい伝統を大切に、未来へ受け継いでもらいたいと思っています」。



曳舟橋の上での手踊り(左)、姫様に扮した松原初枝さん(昭和30年)